

学長
長谷川 匡俊
淑徳大学



【学長プロフィール】はせがわ・まさとし●1943年生まれ。明治大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了。文学博士。90年より現職。

【大学プロフィール】1965年創立。総合福祉学部、コミュニティ政策学部、看護栄養学部、国際コミュニケーション学部、経営学部。2013年、教育学部を新設予定。

徹底した実習教育の伝統を 2013年新設の教育学部、 14年設置予定の人文学部にも生かす

社

会福祉士をはじめ、看護師、管理栄養士、教職など、幅広い専門職を養成し、「福祉の淑徳」ともいわれる本学の強みは、4年間の体系だった実習教育にあります。特別養護老人ホーム「淑徳共生苑」と付設の診療所は、地域の福祉や医療のニーズにこたえる施設であると同時に、年間約750人もの学生が学ぶ、実習の拠点です。

また、地域密着を掲げるコミュニティ政策学部では、アクティブラーニング(能動的な学習)や、サービスマーケティング(奉仕を通じた体験学習)の手法を取り入れています。自治体、民間企業、NPOなどと協定を結び、実際の業務を通じて体験的に学ぶもので、本学が伝統としてきた実習教育の流れをくむものと

いえましよう。

昨年度再び、大学基準協会による認証評価を受けたことは、本学の活動を総点検する絶好の機会となりました。それをふまえた改革・改善に踏み出したところですよ。おりしも3年後は創立50周年という節目の年。創立者がどのような思いでこの大学を作ったのかという原点に立ち帰り、大学が進むべき方向を明らかにし、その達成状況を、創立者に報告しようと考えています。

目指すのは、幅広い職業人の養成であり、地域社会への貢献であり、生涯学習のニーズにこたえること。加えて、大乘仏教を建学の精神とする大学として、仏教をキーワードに海外交流の活性化を図りたいと考えています。縁あつ

て、ベトナムのハノイ国家大学との共同研究が今年からスタートしました。これを機に、アジア各国との交流をいっそう深めたいと思います。キャンパスに外国人が行き交い、地域の人が自由に学ぶ。そこに身を置くことで自然に「共生」のマインドを培うことができるようなキャンパスになることが理想です。

人文学部(表現学科、歴史学科)の設置計画にあわせ、2014年には、東京キャンパスが誕生する予定です。例えば歴史学科では、「実学としての歴史学」という要素を打ち出し、「フィールドワークに力を入れるなど、淑徳大学らしさを出すつもりです。同様に、13年に新設する教育学部(こども教育学科)も、1年次から現場に足を運ぶなど、実習教育を徹底的に行います。

淑徳大学歌の歌詞には「実学」の文字が繰り返し出てくるのですが、私はこの言葉には3つの意味があると思っています。1つめは、実践を通して体得する学び。2つめは、現場で役立たせることができる学び。3つめは、自己実現を図ることのできる学びです。つまり、実践を通して体得した智慧を、実用に役立て、自己実現を果たしていく学び。50周年を機に、そつした学びをいっそう深めていきたいと考えています。